生涯学習情報誌
フォンズ
No. 69
2014年２月10日
発行

常陸太田市フォンズ・ネットワーク
事務局 常陸太田市生涯学習センター内
〒313-0061
茨城県常陸太田市中城町3280番地
TEL：0294（72）8888
FAX：0294（72）8880

大沢の滝（春友町）

ビードロ

水の想い出 ⑥⑦

昨今写真のような氷柱（つらら）は、あまり見かけられなくなった気がする。子どもの頃は、冬になると軒下や岩場の崖などから棒状に伸びた氷柱をよく見かけたものだ。氷柱は方言の多い言葉で「ビードロ」と呼んでいた懐かしい記憶がよみがえる。書物によると茨城、静岡、和歌山、愛媛、長崎、鹿児島などで使われていたとのこと。この「ビードロ」は、ガラスを意味するポルトガル語（vidro）とのことだそうだ。ちなみに方言の一部を紹介すると地方によって「たるひ」「たろひ」「しが」「すが」「しがこ」「あめんぼー」「なんりょー」「ようらく」と、いろんな呼び方があるようだ。語源は「つらつら」の転といい、古来は氷など表面がつるつるし光沢のあるものを呼んでいた。「たるひ（垂氷）」この言葉は東北地方方言の「たろひ」などに残っている。「しがこ」と聞くと、わらべ歌『どじょっこふなっこ』の歌詞「♪春になればしがこも解けて～」をよく歌ったことを思い出す。

昔のことを言うと笑われそうだが、今よりもっと長く太い氷柱をいたるところで見かけた様な気がする。朝登校する途中、友達と氷柱を取ってチャンバラごっごをやって、折れた方が負けとか競い合ったものだ。また、額に乗せて思わず「冷めてえー」と言っては太陽に当てると頭がキーンと痛みを感じたり、舐めたりしながら行ったものだ。自然・環境が変わってきたために、今ではこのような姿がトンと見かけられなくなったのは残念でならない。

（髙橋　靖浩）

フォンズとは、ラテン語で泉の意味です。とぎれることなく新鮮な情報がお届けできるようにと名付けられました。

新しいコミュニティの誕生！

つるです！

コミュニティってよく耳にする言葉になりましたが、いったいどんなものなのでしょうか？「住民相互の交流が行われている地域社会、あるいはそのような住民の集団を指す」つまりは「つながり」がある場所や仲間のこと。常陸太田市で活発に活動をしている新しいあり方のコミュニティをご紹介します。　（相原　早苗・白石　百合乃・塩原　慶子）

市役所の１階ロビーに、不思議な形の人形が並んでいたのを見かけた方も多いと思います。これは「じょうづるさん」。じょうづるさんは「子育て上手常陸太田」の冊子が作成された時に、PRを担うキャラクターとして小さく登場したイラストでした。

水府の「こしらえ館」で陶芸の指導をしている根本聡子さんが、このキャラクターをおもしろがり、陶器で作ってみたのがきっかけ。根本さんが指導している陶芸サークルの皆さんが「先生、何をつくってるんですか？」と代わる代わる質問してきて、そのたびに「これは、子育て上手常陸太田のキャラクターで…」と生徒さんに説明を重ね重ねしていたそうです。そのうちに、生徒さん達もおもしろがってじょうづるさんを作り始め、今では総数100体近くのじょうづるさんが誕生しました。

大学でアートを学んだ根本さん「これこそインタラクティブアート（参加型芸術）だ」と思い当たったそうです。インタラクティブアートとは、作品とそれを見る人の対話によって作られ、作品を見る人が作品との間になにがしかの「感動」を共有し、作品の持つ物語に参加することをいいます。

かわいらしさや不思議さで、見る人の興味と疑問を引き寄せ、会話や共感をうみだす、アートの持つ力を十分に発揮した陶芸サークルの皆さんは、子育て支援のサポート役も果たしてくれています。

アートが持つ感動や驚きに子育て支援などの役目を重ね、伝え広げる新しい手法が、じょうづるさんと一緒にうまれたのでしょう。

市役所ロビーに展示されたじょうづるさんを作った方々

子育て上手常陸太田推進隊は、子育て中の保護者の方や子育て支援活動を行っている人たちを対象に、常陸太田市の子育て支援策を自分たちの言葉でPRする「口コミ」係として募集されました。実際に様々な市の支援策を利用している本人達が、その使い勝手やあり方を、ママ友たちに伝えていくだけで大きなPR効果が発揮されているそうです。

じょうづるさんの産みの親は男性二人だった!?

鈴木謙介さん（左）と中村 準さん

じょうづるさんを産み出したのは土浦市にあるデザイン事務所のお二人。「常陸太田市の市章・鶴と上手をかけて」。鶴なのになぜ真っ黒なんですか？という質問に「狙っていました。『なんだこれ感』をキャラクターにまとわせたかった。」そうです。見ただけではよく分からない造形によって、見る側の興味を引き寄せたのだそうです。うまい！中村さんはパパさんでもあり、子育て支援の大切さを身をもって感じている、イクメンだそうです。

ママが笑うと子どもも楽しい♪ ハンドメイド 大好きなみんなが、楽しく幸せな時間を叶える～ NOZO color のぞから

nozo~colorメンバー

ケーキではありません
デコスイーツです

ハンドメイドの楽しさを共有しながら、子育て世代の人のつながりを深めるグループnozo~color。のぞみ幼稚園の保護者の有志で2008年に始まったワンデイショップは昨年12回目を迎えました。

毎年２回開催を目指して、機初公民館から始まり、現在はパルティホールで開催されていますが、毎回入場待ちの行列ができるほどの人気のイベントとなっています。イベント開催のきっかけは１冊の雑誌から。自宅を利用してのワンデイショップを楽しむヒントが詰め込まれた雑誌を見ながら、「いつかこんなワンデイショップができたらいいね」とお友達同士で話し合ったこと、だそうです。

手作り作品の数々

ワンデイショップの会場には、センスのいい小物雑貨が並んでいます。お母さん達だけでなく、お父さんがつくる木工家具もあり、家族も含めた新しいつながりを作るのに重要な役目を担っています。

従来からある「手芸サークル」との大きな違いは、ワンデイショップという作った作品を売る場を設けているところにあります。売るといっても、値段は殆ど材料費。作品としての「もの」を渡すワンデイショップで、作り手ではない、メンバー以外の人たちとの出会いの場を作り出しているのです。作品のかわいらしさや、作り手の「ものを作る楽しさ」が「買う」人に伝わって行き、その人達が、新しい仲間になる可能性を広げていきます。さらに、自宅ショップを開く夢まで広がりを見せている人もいるそうです。楽しさを循環させながら大きくしていくnozo~colorさんの次のワンデイショップは６月21日、見逃せませんね。

金砂郷の元気な仲間たち GO!郷!会

金砂郷地区の20代から40代のメンバーで構成されているGO!郷!会。金砂郷地区の地域おこし協力隊が毎月発行している「Kanasa-go!」に紹介してきた人を中心に声掛けをし、集まったメンバーです。メンバーは15名ほどで、職種は農業従事者、飲食店経営者、大工さん、かな料紙の職人さんや仕事は水戸でというメンバーもおり多様です。

メンバーで話し合いを続ける中で、地域のために何かをしてみたいと一致し、その第一歩として12月８日に「金砂山のけんちん村まつり」を開催しました。GO!郷!会のメンバーだけでイベントを開催するよりも、もっと地域の人たちと一緒に作り上げていきたいという想いから、新たに実行委員会を立ち上げて取り組むことにしました。金砂郷地区ではこのようなかたちでのイベント等を行ったことがなかったため、開催まですべてが手探り状態で、そのため反省点も多くなってしまいました。

イベント当日の様子

地域の人々を含めた実行委員会

GO!郷!会メンバー

しかしそれを経験に「地域のためのなにか」を行うことにつながっていけば、と考え、GO!郷!会は会合をつづけています。またGO!郷!会のつながりだけでなく、他のコミュニティグループとも交流し、お互いに協力するところはする、刺激し合えるところはできるような存在になれればと考えています。　（白石　百合乃）

ビブリオバトル in 常陸太田

昨年秋、市立図書館で開催された「ビブリオバトル」、取り組んでいたのは、常陸太田市在住の大学生を中心としたグループでした。読み聞かせのグループは市内にもたくさんありますが、こちらは書評を行いながら、人の輪をつなげていこうとする取り組みでした。読書サークルとはまた違って、固定したメンバーだけでなく飛び入り参加もあり。共感をベースとした新しいつながりがうまれました。

実行委員のみなさん

こんにちは！ビブリオバトル in 常陸太田実行委員会です。私たちは、全国各地でひそかに盛り上がっている「知的書評合戦ビブリオバトル」を常陸太田市で開催しようと、常磐大学と茨城大学の学生有志が集まった団体です。

「ビブリオバトル」とは、プレゼンターたちが聴衆の前で自分の好きな本を５分間で紹介し、聴衆が「一番読みたくなった本」はどれだったかを競う、本の紹介ゲームです。2013年の７月から11月まで、市立図書館や生涯学習センターにて、月に一回のペースで開催しました。

小学生からシニアの方までの参加があり、「人前で発表するのは緊張したけど、自分の愛読書についてお話できて楽しかった」「また参加したい」という声があり、大変盛り上がりました。ビブリオバトルは、いつでも、どこでも、簡単に始めることができます。皆さんも是非トライしてみませんか。

実行委員リーダー
常磐大学　岩本　東子

バトルは基本的に２部にわかれています。１部で実行委員会のメンバーが本を紹介、これはバトルがどのように進められるのかの紹介も兼ねています。１部終了時に２部の参加者を募ります。図書館で行われますので、本をその場で探してくることもでき、飛び入り参加も可能になります。

書評というと、なにか高尚なことのように思えますが、自分がその本のどこに惹かれたかを話す、というフォンズでいうと「思い出の絵本」を実際にお話しするような形です。話し方が上手な人が有利ということでもないのが、聴いているとだんだんと分かってきます。

とつとつとでも、言葉を自身の心の中から探しだしている様子が伝わるからか、自然と聞き耳を立てるように、観客も集中していきます。話し手の体験と感動が、波紋のように広がっていくのが目に見えるような思いがしました。誰かが、自分の想いを聴いてくれる、想いを共感したことで、初めて出会った人同士でさえ、温かな心の交流がうまれる、ビブリオバトルはそんな共感の輪を生み出す取り組みでした。次回は皆さんもとっておきの本を手に参加してみませんか？　（塩原　慶子）

生涯学習情報誌「フォンズ」は、2～3ヶ月毎に発行し、市内全世帯に配布され、大きな宣伝効果が期待できます。ぜひご利用下さい。

◆広告を募集している情報誌
平成26年4月に発行予定の生涯学習情報誌
「フォンズ」第70号

◆広告料（1回あたり）※会長が指定するページの最下段
① 縦4.5cm×横 8.8cm／10,000円
② 縦4.5cm×横17.9cm／20,000円

問合せ　フォンズ・ネットワーク事務局（生涯学習センター内）　TEL：0294-72-8888
URL：edu.city.hitachiota.ibaraki.jp/gakushu

原点回起 5

「ブログ」

ブログを始めるのに、「どこの無料ブログサービスがいいですか？」と相談を受けることがあります。特に難しい設定も無く、簡単に始めることができ、しかも選べるデザインも豊富ということで個人だけでなく、会社やお店でも、スタッフブログなどで無料ブログを利用しているところはたくさんあります。

フェイスブックやツイッター（以下SNS）を利用している方ならおわかりと思いますが、自分自身が昨日発言した内容を探すのでさえ、なかなか見つけられないほど、SNSでの発言は時とともに見つけにくくなっていく、その速度は驚くほどです。

しかし、ブログはSNSと違って、ログ（記録）のメディアです。ブログを日本語でいうと「デジタル日記」と表現される事が多いように、お店の情報であれ、個人の日々の記録であれ、長きにわたって築き上げていく、一つ一つの記事の積み重ねを、貴重な財産として蓄積することができるメディアなのです。そんな貴重な財産を、いつなくなってしまうかも分からない無料サービスにゆだねるというのはどうでしょうか？

鯨ヶ丘にある犬の美容室さんから「無料ブログを始めたのですが…」と聞いた時、上に書いたような意味から、無料ブログではなく「ブログ付きWebサイト」の開設をおすすめし、お手伝いさせていただきました。コンテンツマネージメントシステムというWebサイト管理システムが普及してきて、以前は管理が難しかったWebサイトが、無料ブログを管理するのと同じくらい簡単にできるようになりました。信頼が基礎となるお店や会社が情報発信のためにWebサイトでの記録を大切にする効果は、改めて説明しなくてもご理解いただけると思います。

では、個人のブログは無料サービスでもいいでしょうか？個人の方でも、無料ブログではなくWebサイトを作ったほうがいいと、自分は考えています。現在全盛のSNSも同じ、無料サービスですので、いつサービス終了されても、利用者は何も言うことができません。事実ある日突然終了した無料サービスはたくさんあります。

10年も続けて書いてきた日記がなくなったり、家族の成長の記録といえるアルバムがなくなったとしたら、どうでしょう？大切な日々の記録を失うこと、考えただけでも大きな喪失感に見舞われること間違いないのではと思います。

多くの人が、自分の言葉で発信をするようになった今のような時代にこそ、思い出や成長の記録としてのブログはもっと大切に記録として残せる形での発信をおすすめしたいと思っています。

（武藤　卓・千絵子）

子育て奮闘記 踊るママパラダイス 66

毎年いただく年賀状。ここ数年、友達からの年賀状が変わってきたなと感じます。どの人も、かつては子ども達の可愛らしい元気な写真をプリントしてくれましたが、最近では干支やお正月の絵が多くなりました。お子さん達の成長を見るようで楽しみの一つではありましたが、大きくなった子どもと写真を撮る機会も減ったからなのでしょうか。また、子ども自身から嫌がられる事もあるでしょう。かく言う我が家も、３人分の写真を載せるのは今年で最後と思っています。長女のスミレは就職も決まり４月からは独立です。ユースケも仕事、ユキノは部活や休みは友達と過ごすことが増え、親と一緒の旅行などは予定できない状態です。意識して写真を撮ると言うことは趣味でもない限りチャンスがありません。来年は、せいぜい下の子二人が別々に写った写真か年賀状用に撮るか。あるいはユキノあたりから「もうやめて。」と言われるか。それも成長の証です。

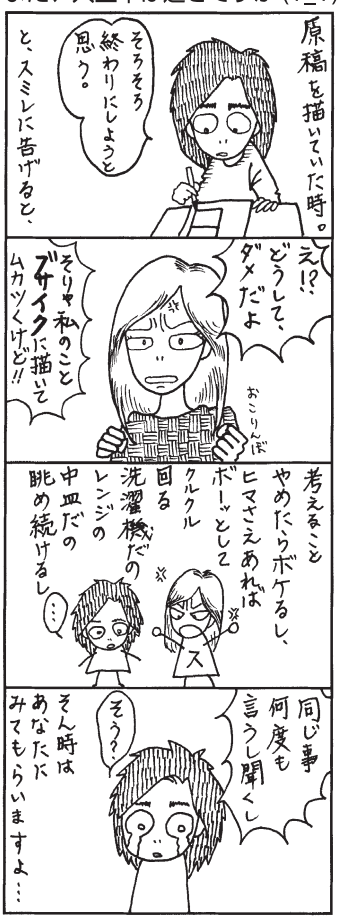
子ども達が小さかった頃のようにあれこれ手をかけることも減り、私はこの先年を重ねて行くことを思うと楽になったと感じるべきですが寂しさもあります。…と言うとスミレからは「空きの巣症候群にならないように自分の楽しみを見つけなさい。」と諭されます。まったくその通り。でも、私はわがままだから、子どもが小さい時には早く大きくならないかなと思い、育ってしまってからはさみしいと言いながら過ごしています。

子どもが小さい頃に、手が離れたらあれをしてこれをしてと考えていたことを思い出そうと思います。大きな事はできなくても、将来は「うちのお婆ちゃん元気すぎ！」と言われるように、はつらつとしていたいです。年賀状は是非、私の直筆絵手紙で。

巣立っていく雛鳥を見送ったら、今度はもっと快適な巣をこさえて「いいでしょう？」と見せつけてやりましょう。

―― わいわいネット　織田　裕子 ――

まだ、人生半ば過ぎですが (T_T)



百姓母ちゃん農日記 13

もんぺ便り

『忙しい百姓生活をゆっくり楽しむには!?』①

「忙しい！」これは私が結婚して農業を始めて以来、最も多く口にした言葉だと思う。忙しいとは心を亡くすと書く通り、仕事するかたわらできれいに咲いている花を見ても、全くきれいと思えないほど、心が憔悴する状態。農家ってこんなに仕事しなきゃならないのかなあ？と疑問を抱えつつ、それでもやらねばならぬことに追われる日々。“農家をやってる若い人”は現在希少と言われる理由もよくわかる気がする。自分の時間がなく、休日もなく、決まった給料もなく、肉体労働は激しいし、おまけに家事育児との両立でてんてこまい。そんな自分を他人がみれば、忙しくて大変だねえ、と声をかけるしかないだろう。ましてや私も農家になりたいなどと思う若い人がでてくるはずがない。

そんなマイナス思考の百姓母ちゃんだが、しかしここで残りの農家人生を倍返しで楽しもうという作戦に出た。まずはこの忙しさを心地よくゆったりした忙しさに変えるには!?

私が考えているのは、まず夫婦農業からの脱却。夫婦２人の農業が私たちの基礎だけれど、夫婦以外の様々な人に農園を手伝ってもらい、農園で働き学んで欲しいと思っている。もちろん大規模に雇用する農業経営者になろうとは思わないが、農業を仕事と考えてくれる家族以外の誰かと一緒にやっていけたら、馴れ合いの夫婦農業とはちがった、規律のある風通しのいい、忙しい中にもゆったり感のある農園を作れるのではと思うのだ。

そして、自分の好きと思うことに時間をかけること。美味しい料理を食べる楽しみ、友だちとイベントする楽しみ、畑をやりながらきれいなものを見つける楽しみ、野菜に添えるお便りやブログを書きながら、大勢の人とつながっていく楽しみ。

いろんな楽しみを農家ならではの仕事のひとつと考えて取り組んでいきたい。忙しいだけの日々ではなく、自分がこんなこと好きだから忙しいのだ！と開き直れる位の楽しいことをしていければ、野の花に笑いかけることもできるのでは？そんな風に思っている。（つづく）

（布施　美木）

種継ぎ人の会 4

私たち「種継人の会」は映画の上映プロジェクトをきっかけに活動を始めたグループです。約１年間、常陸太田市内に古くから伝わる在来作物の数々を調査してきて、新たな在来種を見つけることもできました。

より多くの方達に、在来種の未来を考える機会をとの想いから、２月22・23日の生涯学習フェスティバルに、市内で見つけた在来作物の展示を行うと共に、映画「よみがえりのレシピ」を再上映することとなりました。映画にも登場した山形大学・江頭宏昌氏をお招きし、生産者やゲストの話を聞きながら、在来種を使った料理の試食も楽しめます。

次世代につながる常陸太田市の農産物に一緒に考えてくださる方、在来作物の生産をしてみたいかたも募集中です。興味がある方は是非ご参加ください。

日　時　2014年２月23日（日）
14時～　映画「よみがえりのレシピ」無料上映会
場所　生涯学習センターふれあいホール
16時～18時　在来作物交流会　参加費500円
場所　常陸太田市商工会館２階大会議室

ゲスト　山形大学准教授　江頭宏昌氏
フードアナリスト・食文化研究家　藤原　浩氏

問い合わせ　種継ぎ人の会　布施大樹　090-6135-4092

リレーエッセイ「思い出の絵本」 『ちいさいおうち』 ～67～

（国安町出身　益子　陽介）

絵本を専門に扱うちいさな古書店で本棚を眺めていると、ふと１冊の絵本に目が止まりました。『ちいさいおうち』。バージニアリー・バートン作。幼稚園か小学校に通っていた頃、母に与えられ、毎晩飽きもせずに何度も何度も読んだ絵本。約20年ぶりの再会です。あざやかな色づかいとやわらかなタッチ、何よりこのちいさいおうちの姿形のあいらしさ。27歳となった今でも魅了されてしまいます。

物語は田舎の小高い丘ではじまります。花で満たされる春、緑がまぶしい夏、りんごの収穫がはじまる秋、一面銀世界となる冬。巡る季節のなか、ちいさいおうちだけは変わらずその丘に佇み、季節のうつろいを眺めつづけます。

ある日、その丘の周辺で開発工事がはじまります。道路ができ、たくさんの家が建ち、電車や地下鉄まで走るようになります。穏やかな風景はすっかり様変わりし、りんごの木は姿を消してしまうのです。存在を忘れられ、ペンキははげ落ち、窓もわれてしまったちいさいおうちは、やがて持ち主の子ども（の子どもの子ども…）に偶然見つけられ、また田舎の丘で暮らしはじめることになります。

この絵本を読むと、変わりつづける自然のいきいきとした美しさ、常に変わらず帰る場所としてありつづける「おうち」の存在の有り難さにあらためて気づかされます。

「またお日さまをみることができ、お月さまやほしもみられます。そしてまた、はるやなつやあきやふゆが、じゅんにめぐってくるのを、ながめることもできるのです」

僕は今茨城を離れ、東京で暮らしています。たまの休みに帰省するのですが、その度に、土のやわらかさ、星の数の多さに、はっとさせられます。茨城で当たり前のように見てきたものは、東京では当たり前のように見ることができないのだなあ。ふとよぎる、ちょっぴりさみしいそんな気持ちをバートンの絵はやさしく包んでくれます。

ほっとひといき フユシャク

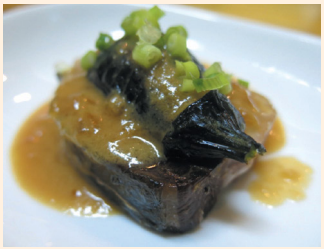
イチモジフユナミシャク 上:メス 下:オス

フユシャク（冬尺蛾）とは、冬にだけ親が出てくる蛾の仲間の総称です。日本国内で40種近くの種類が知られています。他の昆虫類は卵やサナギで冬越しをしたり、成虫の場合でも冬眠状態で寒さをしのいでいます。天敵が少ない時期を独占できる利点がありますが、寒さに対しての備えを発達させなければなりませんでした。

その第一として、メスに翅（はね）が無いか極端に短くて、飛ぶことができないことです。卵を持ったまま、寒い中を飛ぶことをやめたわけです。メスは飛ばない代わりにフェロモンを出してオスを呼びます。オスはメスの出すフェロモンを頼りに飛んで来ます。また、オス、メスとも成虫の口部が退化し食物を一切とりません。何も食べずに１ヵ月近く生きることができます。冬には、花や樹液が無い理由もありますが、食物の水分が凍死につながるとも考えられています。

フユシャクの仲間は普通種も多く、市内の雑木林でも多く見ることができます。ただし、夜行性の種が多く、昼は落ち葉の下や木々の間などに隠れていて、なかなか見つかりません。夜に雑木林に行くと、飛び交う姿を見ることができます。また、木の幹を注意深く観察すれば、交尾中のフユシャクを見ることができます。冬の森の中でも元気に活動している虫たちがいます。　（佐々木　泰弘）

ちょっとひといき「旬彩まるよし」



いただくと、身体の中が綺麗になるような気がする料理ってありますよね。たとえば、きちんとだしを引いてあるおすまし。一口飲んだだけで、やっぱりおいしさが違うなぁという感想と一緒に、食べ物によってからだが清められていくような感じ。舌にぴりっとくる化学的なものが一切感じられない、「正しい」和食。とびきり仲のいい友達同士でわいわい楽しむ、たまには夫婦二人でゆっくり外食、などという時に、遠くまで出かけなくても、ぱっと身近なお店の名前が思い浮かぶことも嬉しいです。お酒を美味しくいただくためだけのお店ではなく、食事も楽しめるお店ですのでランチも数種類あり、毎回どれにしようか悩みます。

（塩原　慶子）

●11:30～14:00／18:00～22:00
●定休日：日曜日
●茨城県常陸太田市内堀町3515
●TEL.0294-33-8663

常陸太田の地名話 ～13～

山田（やまだ）【常陸太田市山田地区】

『常陸国風土記』には、「郡役所の北二里のところに山田の里がある。その辺りの多くは、山を開墾した田（墾田）となっている。そこを流れる清い川（山田川）の源は、北の方にあって、郡役所の南を通って久慈川に合流する。この川からは多くの鮎がとれ、その大きさは人の腕ぐらいもある。」と記されている。

このように山田の地名は、この辺りの土地の多くが、山を開墾してできた田からなっていることに由来するという。　（川松　博）

＜参考文献＞「常陸国風土記」「茨城県地名大辞典」「水府村の歴史散歩」

松平町付近を流れる山田川

新太田点描 5

烈公夫妻と山寺晩鐘

水戸徳川家歴代藩主のなかで太田と関わりの深いのは二代光圀公（義公）と九代斉昭公（烈公）であろう。

義公による瑞龍山墓地の造営と西山荘での約十年間に及ぶ隠居生活は、数々の逸話やエピソードをうみ一般庶民にとって義公の存在をより身近かな親しみやすいものにしたであろう。特に、歴代の藩主とその夫人の墓石には太田町屋産の斑石（通称町屋石）が用いられている。しかも石の紋様はササのみでボタンは使用していないとのことである。

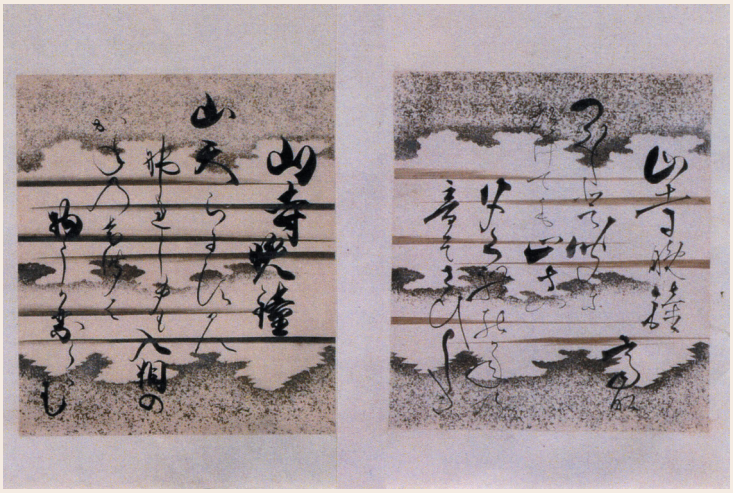
方や烈公は幕末という時代に翻弄されながらも藩政改革を強力に推進して多くの成果を残している。

また学問・教育それに加えて医学・医療にも熱心で藩校弘道館の創設や偕楽園の開設、そして更に領内各地に郷校の建設を推進した。特に郷校の最初の目的は在郷の医者（郷医、薬師）たちの学問上達や医療技術の向上がねらいであったことが現存する資料等から読み取ることができる。今も広く一般に公開されている弘道館と、その建学意義を刻んだ弘道館記の碑石や偕楽園の吐玉泉石には、太田真弓産の寒水石が用いられている。

さらに烈公は、水戸藩領内の各地にあまねく目配りをし、中国の瀟湘八景や畿内の近江八景に擬して水戸八景を比定している。この時、太田地方からは山寺晩鐘と太田落雁が選ばれている。

さて、ここで紹介するのは、現在水戸市立博物館が所蔵する烈公とその正室登美宮吉子夫人の「山寺晩鐘」を詠んだ歌である。元々はかな文字用の色紙型料紙に漢字・仮名・変体仮名を巧に使い熟して墨黒々と書かれていたものであるが、現在は軸装対幅に仕立てられている。

下段に読みを掲げておくので左の写真と読み比べていただきたい。



山寺晩鐘　斉昭

つくつくと聞に
つけても山寺の
夕くれのかねの
音そさひしき

山寺晩鐘（吉子＝無署名）

山てらにすみ
なれし身も入相の
かねの音聞は
物うかるらむ

参考までに水戸八景（所在地）と烈公の七言律詩を左に掲げておこう。

水戸八景（所在地）	水戸八景　烈公作
仙湖暮雪（水戸市）	雪時嘗賞仙湖景
青柳夜雨（水戸市）	雨夜更遊青柳頭
山寺晩鐘（常陸太田市）	山寺晩鐘響幽壑
太田落雁（常陸太田市）	太田落雁渡芳洲
岩船夕照（大洗町）	霞光爛漫岩船夕
広浦秋月（茨城町）	月色玲瓏広浦秋
村松晴嵐（東海村）	遙望村松晴嵐後
水門帰帆（ひたちなか市）	水門帰帆映高楼

ただ、烈公による水戸八景の選定は天保十三年（一八四二）と云われているが、題字を刻んだ碑石の建立は八景何れも、それぞれ後年になってからである。

（吉成英文）